

肝炎の早期発見・ 早期治療を促進



茶山教授(中央)とスタッフ

「肝疾患相談室」を充実・強化



肝臓病教室の開催



肝疾患に関する個別相談

「肝疾患相談室が 中央診療施設に」

消化器・代謝内科 診療講師
河岡 友和



肝疾患診療連携拠点病院としての役割が多様化しています。こうした中、広島大学は、今年度から国の肝炎対策に関する拠点病院のインセンティブ事業の公募に応募しました。そして、統括肝疾患コーディネーターを配置して県内の肝疾患コーディネーターを統括するという広島大学の事業案が採択されました。この結果本院は、規模の拡大に対応し事業を円滑に行うため、特に看護師の配置の必要性などの観点からも、肝疾患相談室を中央診療施設の一つとして明確に位置づけることとしました。引き続き、診療連携拠点病院としての更なる役割を果たしてまいります。

■何が変わる

肝疾患相談室では現在

- 肝疾患の相談業務（件数は図のとおり）
- 肝臓病教室の開催（4回／年）
- 市民公開講座の開催（1～2回／年）
- 医療従事者向け研修会（3回／年）
- 肝疾患コーディネーター向け研修会（1回／年）

等を行っています。

今年度からはさらに、

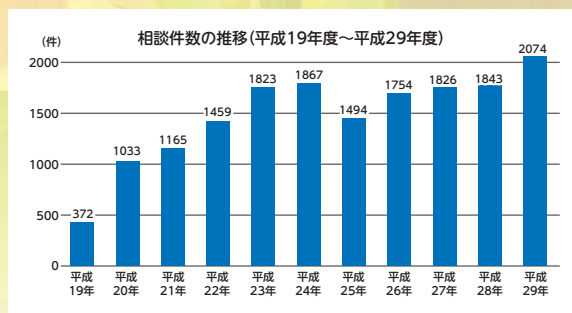
総括肝疾患コーディネーターを中心に

- 院内肝疾患コーディネーターのネットワークづくり
- 特任肝疾患コーディネーターの取りまとめ
- 広島県内の7つの医療圏における肝疾患コーディネーター交流会の開催
- 協会健康保険組合などの職域への対応
（出張講座、検診のウイルス検査で陽性となった社員への説明など）
- 医療機関（医師会、保健所も含む）や製薬企業と共同の講演会の企画
（特に非消化器系の医療機関向けの講演会）
- 肝炎検査結果説明機能導入の評価等の活動

を検討しております。

これらの活動により、広島県内に1,000名以上在籍する肝疾患コーディネーターの活動の充実を図り、肝炎ウイルス検査の受検率の向上など、肝炎対策基本指針の目標である「肝硬変・肝がんへの移行者を減らす」取り組みに繋がりたいと考えています。

また、肝疾患相談室の人員もこれまでの相談医2人、相談員1人、事務員1人という体制から、看護師長1人（兼任）、副看護師長職の総括コーディネーター1人（専従）、看護職の特任コーディネーター3人（兼任）を増やし9人体制とします。肝臓病教室や市民公開講座など、患者向けの肝炎啓発活動を円滑に進めたいと考えています。



■これまでの経緯

平成19年4月、厚生労働省より各都道府県知事に「肝炎の診療においては、肝疾患診療連携拠点病院を選定し、当該病院を拠点としてかかりつけ医と専門医療機関等と連携しつつ、『早期発見による早期治療を促進し、肝がんへの進展を防止する』ことを目標に、それぞれの役割に応じた診療体制構築を図る必要がある」との

通知がなされました。これを受け、広島県は平成19年12月、広島大学病院と福山市民病院を肝疾患診療連携拠点病院に選定し、相談医1人、相談員1人、事務員1人で構成する『肝疾患相談室』が本院内に設置されました。

また、平成22年1月には肝炎対策基本法が施行され、①肝炎の予防及び早期発見の推進、②肝炎医療の均てん化促進、③研究の推進の三点が基本的施策として決定されました。

さらに平成23年5月16日には、「かかりつけ医と専門医療機関の連携」が肝炎対策の推進に関する基本的な指針として策定されました。これを受けて本院は、広島県や肝臓専門医が従事している医療機関と「広島県肝疾患診療支援ネットワーク」を構築し連携を推進するとともに、肝疾患コーディネーターを積極的に養成するなど、肝炎対策に戦略的に取り組んでまいりました。

そして平成28年6月30日には、肝炎対策の推進に関する基本的な指針が

- ①肝炎の予防及び肝炎医療の推進の基本的な方向
- ②肝炎の予防のための施策に関する事項
- ③肝炎検査の実施体制及び検査能力の向上に関する事項
- ④肝炎医療を提供する体制の確保に関する事項
- ⑤肝炎の予防及び肝炎医療に関する人材の育成に関する事項
- ⑥肝炎に関する調査及び研究に関する事項
- ⑦肝炎医療のための医療品の研究開発の推進に関する事項
- ⑧肝炎に関する啓発及び知識の普及並びに肝炎患者等の人権の尊重に関する事項
- ⑨その他肝炎対策の推進に関する重要事項

などの9項目となり、現在に至っています。



肝臓病教室

■ 肝炎対策の現状と今後の課題

現在、C型肝炎の感染を知らない潜在患者は約29万人、感染を知ったが受診していない患者は約70万人とされています。その患者(特に職域)の受検、受診、受療の推進が今後の課題です。

また、脂肪性肝炎患者の増加に対する対策、B型肝炎、C型肝炎以外の症例からの肝がんの増加が問題となっており、その対策も必要です。

さらに診療報酬の改定により、手術前医学管理料の算定要件として、術前に肝炎ウイルス関連検査を行った場合には、当該検査の結果が陰性であった場合を含め、当該検査の結果について患者に適切な説明を行い、文書により提供することが義務付けられました。本院でも平成30年2月1日より、肝炎検査結果説明機能(電子カルテシステム)を導入しました。その過程においてコーディネーターがどう関わるかも、今後の課題です。

■ 広島大学病院の果たすべき役割は

本院は広島県の肝疾患診療連携拠点病院として、かかりつけ医・専門医療機関等と連携し「早期発見による早期治療を促進し、肝がんへの進展を防止する」ことを目標に、事業を展開していくことが役割だと考えています。

相談窓口

患者さん、患者さんのご家族、医療従事者等の方は、電話又は面談でご相談いただけます。(一般相談)

一般相談は予約制ではありませんが、事前にご連絡をいただくとスムーズに対応させていただくことができます。一般相談後に専門的な医療のご相談については、必要に応じて医師による専門相談(予約制)を実施しています。

電話番号 082-257-1541

場所 広島市南区霞1-2-3
広島大学病院 臨床管理棟(旧外来棟)1階

受付時間 平日 10:00~16:00
(土日祝・年末年始を除く)

URL <http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/>



ニュースアップ

本院の診療棟が公共建築優秀賞に

広島大学病院の診療棟が、設計や施工が優れているだけでなく、地域社会に貢献する公共性の高い建築物だとして、公共建築賞の優秀賞に選ばれました。本院の診療棟は、自然エネルギーの有効活用や最新技術による二酸化炭素排出量の削減、緑あふれる屋上庭園や壁面緑化など環境に優しく次世代の医療を担う病院として整備を進めています。

公共建築賞は、一般社団法人公共建築協会が、竣工後3年以上の国や自治体、公共性の高い建築物を対象に、1988年から1年おきに選定をしています。今回は全国から102施設の応募があり、32施設が優秀賞に選ばれました。



診療機能の中枢を担う診療棟/屋上にグリーンガーデンを整備

*詳しくは、公共建築協会の下記アドレスをご覧ください。

https://www.pbaweb.jp/pb_date/award/news/16th_pbaward_opa_180412/

第39回親子のお口の健康教室

6月4日(月)の「むし歯予防デー」にちなんで6月1日(金)、広島大学霞キャンパス構内の広仁会館で、毎年恒例の「親子のお口の健康教室」が開かれました。

39回目となる今年のテーマは「元気の源 元気な歯 家族みんなで むし歯予防」。どうしてむし歯になるのか、どうしたらむし歯を防げるのか、親子で楽しみながら生活の見直しに少しでも役立てばと企画されました。親子77名と院内のたんぽぽ保育園の園児35名などおよそ130名が参加しました。歯みがき指導や歯科検診の他、歯学部口腔健康科学科の学生によるアンパンマンやばいきんまんなどのぬいぐるみ劇、子どもたちの食事の時間や内容、食べ方のアドバイスなどが行われました。」

小児歯科の香西教授は「むし歯菌は砂糖が大好きです。おやつ時間を決めて、だらだら食いはやめましょう。生え立ての歯がむし歯になりやすく、年齢によってむし歯ができる場所が変わります。口は健康の入り口です」と、むし歯予防のポイントをアドバイスしました。



アンパンマンとばいきんまんのぬいぐるみ劇



覆かせ歯みがきの指導



むし歯のチェックや歯科相談

栄養管理部
情報

食中毒には ご用心!



担当した管理栄養士

暑い夏は、特に    **加熱不足の肉や卵、魚などの食品**が原因で食中毒が起こりやすいので注意しましょう。



食中毒予防の3原則

食中毒の原因菌を…



付けない!

調理を始める前や、生の食品を取り扱う前後、食卓につく前に手洗いや殺菌消毒を心がけましょう。

増やさない!

菌を増やさないために低温での保存が重要です。10℃以下では菌の増殖が遅くなり、マイナス15℃以下では増殖が停止します。

やっつける!

ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅します。特に肉料理は、中心までよく加熱しましょう。中心部を75℃で1分以上加熱することが目安です。

(参考:厚生労働省HPより)



人参と大根のマヨわさび和え

材料

人参……………約1/3本 (25g)
大根……………約1cmの厚さ (30g)
マヨネーズ…大さじ1杯 (14g)
わさび…………小さじ1杯 (6g)
めんつゆ……小さじ1杯 (5g)

【栄養価】エネルギー:126kcal
たんぱく質:1.0g
脂質:10.8g
炭水化物:6.5g
食塩相当量:0.9g



レシピ

- ① 人参は細切り、大根は短冊切りにする。
- ② ①をレンジで50秒ほど温める。
- ③ ②にマヨネーズ・わさび・めんつゆを加えて和える。
- ④ 皿に盛り付ける。

一言
メモ

わさびには抗菌効果があり、調味料の中でも殺菌能力が高い部類に含まれます。このほかにも、酢やニンニクなども抗菌効果が強いと言われています。
(参考:国立健康・栄養研究所「健康食品の安全性・有効性情報」HPより)





病院で働く人に ズームイン!

FILE 01 理学療法士

みち うえ かな
道上 可奈 (26歳)



どんな仕事をしていますか?

理学療法士になろうと思ったのは、高校生の時。小中高と陸上をやっていたのですが、ケガが多くやりたいことができない時期がありました。ですから、やりたいことができるよう、支える仕事をしたいと思いました。今は、小児から高齢者まで様々な疾患の患者さんに対して、やりたいことが安全にできるよう、家族の負担も少なくなるよう、工夫しながら運動療法などを行っています。

心掛けていることは?

身体機能や運動機能を向上させることはもちろんですが、患者さんがやりたいことができるよう最大限サポートすることです。医療者や家族の思いと患者さん本人が思うことが違うことがあります。本人の思い、家族の思いを尊重しつつ、本人・家族の人生が楽しいものとなるよう、リハビリテーションや理学療法の視点を持って生活を見ることが大切だと思います。

うれしかったことなどエピソードは?

うれしいことは、患者さんがリハビリを楽しみに来てくれること。来た時は沈んだ表情だったのに、リハビリで明るい表情

に変わること。退院した後、元気になったと会いに来てくれることなどですね。患者さんの思いを実現できず退院や転院をするときは、悔しいし悲しいです。

今後の抱負は?

理学療法士は30人います。患者さんの状態を評価し、問題点を抽出して身体機能や運動機能の向上、生活動作が円滑に行えるようになるためにプログラムを考えています。一人で動いているわけではありません。チームワークが大切です。作業療法士や言語聴覚士、看護師などともコミュニケーションを取りながら情報共有を図っています。まだまだ経験不足です。先輩に教わりながら、後輩や学生に繋げていきたいなと思います。



催しのご案内 (2018年7月~9月)

がん治療を支える患者サロン

腎がんの基礎と治療について

7月26日(木) 14:00~15:00 場所: 3F2会議室
講師: 泌尿器科 医師 亭島 淳

—がん治療を支える— がん療養と食事について

8月23日(木) 13:30~14:30 場所: 3F4会議室
講師: 管理栄養士 岡 壽子

大腸がんの基礎と治療について

9月19日(水) 13:30~14:30 場所: 3F2会議室
講師: 消化器外科 医師 恵木 浩之

患者・家族が同じ目線で

がん患者おしゃべり会

7月31日(火) 13:30~14:30

8月28日(火) 13:30~14:30

9月25日(火) 13:30~14:30

会場: 診療棟2階 情報プラザ

いずれも問い合わせは:
がん相談支援センター ☎082-257-1525